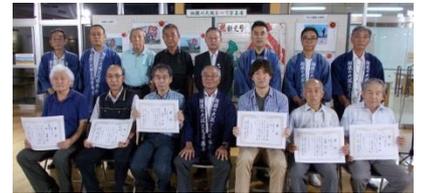


大風まつり写真コンテスト表彰式が行われました

令和元年7月18日(木)相模の大風文化保存会、相模原市まち・みどり公社共催の「相模の大風まつり写真コンテスト」の表彰式が、新磯ふれあいセンターで行われました。今回、「凧揚げの部」33作品、「まつり風景の部」27作品の中から、最優秀賞2作品、優秀賞3作品、入選3作品が厳正な審査から選ばれ、この日の表彰式となりました。表彰式では「凧揚げの部」最優秀賞の篠崎功氏を始め、出席された6名の入賞者全員に川崎会長から表彰状と、副賞の今年の題字「令和」の凧が贈呈されました。終了後は記念撮影を行い、表彰式は終了しました。



入賞の皆様



相模の大風文化保存会総会

表彰式終了後、令和2年度の相模の大風文化保存会総会が行われ、来年5月の大風まつりに向け、スタートが切られました。その中で、任期満了に伴い、川崎勝重氏が新会長に推薦され、満場一致で選出されました。



凧揚げの部最優秀賞の篠崎氏

「相模川帆かけ舟実演会」が開催されました！



川面を優雅に走る帆かけ舟

毎年8月の第1日曜日に行われている相模原市磯部民俗資料保存会主催の「第34回相模川帆かけ舟実演会」が8月4日(日)に磯部頭首工の上流で開催されました。午前10時からの開会式では保存会の吉澤美芳会長のあいさつや、本村市長をはじめとする来賓の祝辞に、猛暑の中、訪れた多くの見学者が耳を傾けました。この実演会の最大のお楽しみは帆かけ舟伴走舟への乗船体験で、乗船した来場者は川面を渡る涼風を感じながら、南風を受けて川をさかのぼる帆かけ舟の姿、新磯ならではの夏の風物詩を満喫していました。普段できない体験のため、今年も先着80名の整理券がすぐなくなるほどの大人気でした。

この帆かけ舟は明治時代から昭和初期まで、相模川の水運で活躍し、上流から薪や炭などを、下流から干物や生活用品などを運んでいたそうです。



本村市長も初乗船

「夏の交通事故防止運動」キャンペーンを行いました

- 7月11日から20日までの10日間、全国で行われた「夏の交通事故防止運動」に合わせ、南区安全・安心まちづくり推進協議会
- 新磯支部では新たに事故防止を啓発する、6メートルの横断幕を作製し、上磯部、下磯部、新戸の交通量の多い地区内3箇所に設置しました。この横断幕は、年4回全国で行われる運動期間に合わせた幕が設置されます。



新戸踏切付近の横断幕

- また、この期間中の7月13日(土)、地区内にある「スーパーたからやフレサ」店頭で南区安全・安心まちづくり推進協議会新磯支部の役員が、交通事故防止啓蒙チラシと、団扇、反射リストバンドなどの啓発グッズを買い物客などに一人ひとりに渡し、交通事故防止を訴えました。今後も、秋、年末の期間中はキャンペーンを行う予定にしています。



フレサ店頭にて